

14. 1946年南海地震の東京某郷における

観測結果

地震研究所 岸上冬彦
全 清田秀夫

(昭和22年2月18日発表—昭和22年2月28日受理)

南海地震は大きかつたため、2倍強震計までも、描針が記録紙からはぐれてしまつて、完全なものを得ることは出来なかつた。しかし不完全ながらも読み取り得た結果は次の通りである。

| | |
|------|---|
| 発震時 | 1946年12月21日4時20分10.4秒 |
| P～S | 80.7秒 |
| 継続時間 | 2時間 |
| 初動 | 80 μ S, 67 μ W, 20 μ D. |
| 最大動 | EW 14.0 ^m 以上 (5.2 ^s) NS 12.0 以上 (4.8 ^s) UD 3.0 (3.5 ^s) |

括弧内は最大動の振動周期を示す。

この結果から、震央は東京からS40°Wで、紀伊水道の南方沖となる。

図は2倍強震計によつて得られた記録の初めの部分を示す。

二倍強震計

× 2

S
|
N

E
|
W

D
|
U

← / 分 鐘 / →

